第5回　中国圏広域地方計画学識者等会議　議事要旨

■日時:令和6年2月 26 日（月） 10:00～12:00
■場所:建政部 3階 会議室
（対面形式及び WEB 形式の併用）

出 席 者:別紙のとおり

議　題

1） 次期広域地方計画の策定スケジュールについて
2） 中国圏広域地方計画（中間とりまとめ（素案））について
3） その他

（配布資料）

資料1　　次期広域地方計画の策定スケジュール
資料2　　中国圏広域地方計画（中間とりまとめ（素案））
資料3　　中国圏広域地方計画（中間とりまとめ（素案））説明 PPT
参考資料1　学識者等会議 規約
参考資料2　国土形成計画（全国計画）
参考資料3　中国圏広域地方計画（基本的な考え方）
参考資料4　中国圏広域地方計画（基本的な考え方）参考資料
参考資料5　中国圏の特性と課題（「暮らし」を取り巻く状況の変化）

１．開会

挨拶（中国地方整備局長　中﨑局長）

○中国圏では、基本的な考え方（現状と課題、将来像、目標）について、令和５年７月５日に公表。
○令和６年冬に中間とりまとめを公表するスケジュールを念頭に置き、理念、基本戦略、４つの将来像に対するキーワード、地域生活圏などについても、中国圏でオリジナリティーを踏まえた検討を行っている。
○今後公表する「中間とりまとめ」を構成する「広域連携プロジェクト」「他圏域との広域連携プロジェクト」についても検討をしているので、本日の会議において議論を頂きたい。

渡邊座長（福山市立大学大学院）

○令和６年能登半島地震を通じて、災害に対するリスクマネジメントがいかに重要であり、中国圏でもどうあるべきかをもう一度考え直す機会となった。
○本日の議題は、大きく以下の２点。
「１）次期広域地方計画の策定スケジュールについて」
「２）中国圏広域地方計画（中間とりまとめ（素案））」

2. 議題

1）次期広域地方計画の策定スケジュールについて

事務局より「１）次期広域地方計画の策定スケジュールについて」を説明

渡邉座長（福山市立大学大学院）

○本年５月に説明頂いた際には、令和６年夏頃に中間整理（中間とりまとめ）の公表であったが、それからスケジュールが変更となった経緯について説明をお願いしたい。

事務局

○中間とりまとめの公表時期を令和６年夏頃としていたが、令和６年能登半島地震の影響を踏まえ、中間とりまとめの公表時期を全国統一で、半年程度後ろ倒しし、令和６年冬頃の公表予定となっている。

渡邉座長（福山市立大学大学院）

○この策定スケジュールで進めていくことを了解した。

2）中国圏広域地方計画（中間とりまとめ（素案））について

事務局

事務局より「２）中国圏広域地方計画（中間とりまとめ（素案））」について」を説明

渡邉座長（福山市立大学大学院）

○本日ご意見をいただきたい点は以下の３点。

１点目は「計画の理念」「基本戦略」という、計画の一番基礎となる部分について。

２点目は「広域連携プロジェクト」「他圏域との広域連携プロジェクト」について。

３点目は「中間とりまとめ（素案）について」ということで、文章化されたものについて。

○他圏域との広域連携プロジェクトについては、全国座長会議が開催され、そのなかで、西日本で団結することが重要なのではないかと提案があった。このため、他圏域との広域連携プロジェクトに西日本連携プロジェクトが追加されている。

谷口委員（一般社団法人中国経済連合会）

○印象としては、非常によくできた構想。この構想が実現できるように、幅広い関係者の連携を図っていただきたい。

○国土交通省以外、他省庁の政策が、計画への記載が少ない様に見える。特に、人口減少の中で様々な主体と連携すべきことが増えるが、そのときに国の行政機関の方針は重要である。それらを計画に盛り込んでいただきたい。

○特に地方では、人材不足の中で、外国人材の活躍促進が非常に大きな論点になってくるため、計画に盛り込んでいただきたい。

○産官学の連携がこれからますます重要となる中で、特に大学との連携は産業界、経済界として非常に重視しているため、計画に盛り込んでいただきたい。

事務局

○国の政策について、現時点で計画本文に個別の事業や新しい施策は今後の検討という部分もあるのであまり書き込んでいない印象に映ったと考える。同様に産学官連携については、全く書いていないわけではなく、「民間との連携」や「産学官連携」という言葉を記載しているが、恐らく適切な箇所にその文字が入っていないといったことではないかとも考えられる。これらの点については、今後、施策群等の記述において対応したい。

齋藤委員（山口大学）

○今回「活躍人口」という言葉が出てくる回数が多いが、中国圏のオリジナルではないかと捉えている。人や物や金が動くイメージについて、定住人口、関係人口についてはイメージが湧くが、「活躍人口」というのはどういうイメージなのか。この言葉の趣旨の説明をお伺いしたい。

事務局

○今後も続く人口減少を踏まえると、中国圏で住んでいる人たちだけを対象として圏域を維持発展していくことは非常に難しいため、活躍人口は中国圏にかかわりがある方全てが対象である。ただ通り過ぎていくのではなく、これまで以上に中国圏で活躍して、圏域の維持発展に貢献いただける方々を増やしていきたいという思いで打ち出しをしたい言葉。

渡邊座長（福山市立大学大学院）

○中国圏に来て、活躍してもらうことという意味で、交流人口や関係人口のもう一歩上を行く考え方を中国圏として出すべきではないかということで、活躍人口という新しいワードをご提案している。

高橋委員（株式会社中国新聞社）

○計画の理念では、中国圏が全体として目指す方向性がメッセージとして書き込まれており、つながりを大事にして発展してきたところから現代風に再構築していくという考え方が整理されたのは、非常にわかりやすくなったため賛同したい。

○国土形成計画の全国計画との対比で、国土が持続可能するためにはやはり分散型が必要だということが計画内で強調されていないことが気になった。全国計画では、東京一極集中弊害を是正する一つのやり方として分散型を活かすことが相当強く書き込まれている。一方で、中国圏は、災害、食料、エネルギー、さらには個人の生活の質などに強みがあるにも関わらず、これらのポテンシャルを活かすといった記載に遠慮を感じる。今後は、首都直下地震や南海トラフも想定される中で、地方のものを生かしていく書き込みが徹底的に必要と思われる。

渡邊座長（福山市立大学大学院）

○計画の理念で「持続的に成長させる」と書いているが、「豊かに暮らせる中国圏」といった方向づけは必要であると感じた。

森委員 （島根大学）

○活躍人口について、外国人の方もその人口に入るという理解でいいのか。昨今、特に農学系学部においては、中国や東南アジア、西アジアの方が非常に多い状況であるが、日本で働きたくても就職先が決まらないという現状がある。そういう方たちが就職できるような、支援するような何らかシステムができると非常にいい。

事務局

○活躍人口の定義には外国人も入ると考えております。また、当然外国人だけではなく、若者や女性、あるいは身障者、社会でかかわっている全ての方々に対してしっかり活躍をしていただきたいという考え方。

神田委員 （呉工業高等専門学校）

○理念で、中国圏らしいところで「活躍人口の創出、地域資源が持つ力を最大限発揮し、あらゆるつながりを再構築・強化することで、持続的に成長させる」とある。この言葉に対しては全くそのとおり。

○「稼げる産業」「つなぐ」「再構築」というキーワードについては、何らかそこの地域においてやる理由がないと連携は生まれない。際立っているものは一体何で、あるいは何だったか。ここを素直に、ポジティブに評価するところが前座にあってもいい。

○九州圏はかねてよりアジアとの近接性を生かしたところを謳っており、20 年たって振り返ると、アジアに対する強さが残ってきている。今の熊本の半導体の工場の話も、20 年前に謳っていたことが実現していると思うと合点がいく。それらを踏まえると、地理的、歴史的、産業的なもの、自然風土を含めた強みを丁寧に再整理して、自信を持ち、理念としてはもっと強調したい。

○西日本での連携は必要だが、連携していったときに中国がどんな役割を果たすのかがはっきりせず、ネガティブな表現をすると、西日本の中でのまれていく可能性がある。単に通過地とならぬよう、中国地方に対して自信を持つために強みは何なのかを改めて整理し、全般にそれがにじみ出るような計画にしていきたい。

○中国圏は現時点で負けている感があるが、強みを基に自信を持てるポテンシャルを感じる。ポテンシャルは一体どこだというと、冷静に過去を振り返るところにヒントがあるのではないか。

鈴木委員 （山口大学大学院）

○人口減少下の災害発生は地域の持続性の危機をもたらすため、災害対応、復興がうまくいかないと地域消滅が加速化する。能登半島地震後の能登半島の各市町においても、そういった点が危惧されているため、理念に、人口減少下における災害対応、復興に関して言及してほしい。

○例として、地域各地の伝統工芸品、お酒、お菓子、食品などの名産品の保全支援。能登半島では輪島塗の工房が被災して継承が難しくなっているところもある。保全・復活支援を盛り込んでいくことも重要。

○地域に人が残らないと地域は存続できないことを踏まえると、人口減少下の災害発生は、地域の消滅を本当に加速化させてしまうことになりかねないため、人口減少下における災害対応、復興に関して、理念で一言でも言及いただくことを強調する。

渡邊座長（福山市立大学大学院）

○理念には災害時の地域の持続性といった解決すべき課題、豊かに暮らせるといった強みも書ける。課題を書き込むよりは強みを打ち出していった方が良いと思うが、そこをバランスよく書いていく必要がある。

谷口委員（一般社団法人中国経済連合会）

○神田委員の意見に沿った形だが、「中国圏の特性と課題」という項目について、「「暮らし」を取り巻く状況の変化」の下に中見出しというか小見出しを出して、「結局これは何」ということがフレームとしてわかってこないと頭に入ってこない。そういう工夫をしていただけたらありがたい。

渡邊座長（福山市立大学大学院）

○中国圏にはいいものがたくさんあるのだから、それをみんなで認識して自信を持ったほうがいいというご意見もある。課題解決型ではなく、中国圏の強みを整理し、でもこんなところに少し課題があるという書きぶりもあるのではないか。

氏原委員（岡山大学大学院）

○地域生活圏形成の話は具体的に数字を持って説明されていてわかりやすい。ただし、拠点の部分についてはイメージできた一方で、その拠点をつなぐ部分が「回廊」「ネットワーク」という言葉で使われていたが、現時点では少し弱い印象。

○拠点と拠点とのつなぎ方を、きちんと整備していれば拠点は維持されるため、道路をどうするか、鉄路をどうするか、瀬戸内海でいうと航路をどうするか、あとはオンラインでどうするかいう部分に対して国土交通省の強みであり、得意分野であるかと思うので、国土交通省が責任を持って、どう拠点と拠点をつないでいくのか。それをもう少し明確に書いていただきたい。

渡邊座長（福山市立大学大学院）

○地域生活圏のところは、もう少しリアルな感覚を持って書いたほうがいい。先日、広島のサッカースタジアムがオープンして、島根から応援に来という話があった。おそらく、日常的に来るわけではなく、交流人口にも近いが、そういった頻度の高い行動圏が中国圏ではあり得る。そういう意味でのつなぎ方、日常的なつながり、非日常的だけど頻度の高いつながりがあるといい。

大島委員（一般社団法人データクレイドル）

○課題に対してこうしたいという理想の形の計画はよくあるが、最初に「活躍人口の創出」を打ち出されており、実現するという理念が最初に伝わってきて良いと感じた。

○外国の方、若者とか、関係人口とかいろいろ話があり、全ての人に活躍してほしいという意見があったが、フルで活躍できなくても、その地域の中でそれぞれ役割を持つことが大事である。活躍人口というと、新たにつくるというよりは圏域内外のみんなが役割を持つというニュアンスであり、互いに刺激を受けながら、いま暮らしている人がそれぞれ思いと役割を持っていく。計画の中では施設や地域資源をつなげていく話もあるが、人の役割や人の立場をつなげていく話もある。

○また、計画の中で散らばっている「選択」という言葉がいいと思う。それぞれの人が自分の条件とか

環境によって選べることがウェルビーイングであり、一番豊かである。これが豊かであると与えられるものではなくて、それぞれの人が自分で選ぶ、住民側の主体性がもう少し出るといい。

田中委員（島根県立大学）

○中国地方には、山と海が近く川もあり、豊かな自然から紡がれてきた歴史の中でつながりながら、流動性やダイナミズムを持った一つの地域がつくられていった。それぞれのところで完結というよりも、自給もしながら補い合って、つながり合って一つの豊かな地域をつくっていたのではないかと思うし、一体感を感じられるといった強みがあるのではないか。

○関係人口といったときに、首都圏や外からみたいなイメージよりは、もっと中での都市と地方がつながり合い、助け合ってお互いの人生のプラスになっていくところは中国地方だと可能性がある。人口減少は確かに進んでいるけれども、だからこそ多様な人とつながり合って、補い合ってお互いやっていける部分があるのではないか。

○また、移動さえしやすくなれば、空き家が安いので、何軒も空き家を持って、自分で改修して、自分の人生の表現の場にするといった、一歩先のライフスタイルが、中国地方だからこそできるし、国土交通省の出番でもある。そのあたりをもう少し意識してもらうと、より中国地方らしいものができると思った。

渡邊座長（福山市立大学大学院）

○二地域居住において、二つの地域で暮らすことよりも、二つの地域で活躍してもらうことがこれから必要ではないかというのが、今回の活躍人口の持っている意味だ。田中委員からもあったように、補って、つながってといった意味では、コロナ禍でマイクロツーリズムという言葉が出てきたが、中国地方は昔からマイクロツーリズムであったといえる。このようなことを冒頭で強く言えると、活躍人口を打ち出す意味もより強くなると思う。

事務局

○ポテンシャルの書きぶりであるとか、課題が乱雑になっているというご指摘でもあろうかと思う。ポテンシャルは以前からもご意見をいただいているので、もう一度しっかりと我々も読み込みたい。

神田委員（呉工業高等専門学校）

○課題を荷物として捉えるのをやめて、逆に課題にはものすごくチャンスがあるという、ポジティブな捉え方をしたい。人口減少という問題を一つ見たとき、先進国全体から見て日本がどうするかという立ち回りは世界的にも着目されている。それがイノベーションを集める要素としても、あるいは産業を切り開く要素としても可能性は十分にある。そのあたりも含めて、先進的な課題に対して取り組むことが、地域の発展と世界の発展につながるぐらいの気概があってもいい。

齋藤委員（山口大学）

○活躍人口のところで、活躍できる人が増える場という、場づくりの観点もぜひ入れていただきたい。

渡邊座長（福山市立大学大学院）

○閉鎖的な社会だとなかなか活躍できないということもありそうであるため、オープンで、フラットな場づくりは確かに必要だと強く思った。

高橋委員（株式会社中国新聞社）

○広島都市圏や中枢中核都市の議論として、広島県は転出超過が全国ワーストで、この１年意識されてきた。今までも人口減少は起こってきたが、違うのは、今までは中国地方の中から人を集めてきたところがあるが、今回決定的に底が抜けて、いわゆる人口ダム機能がきかなくなっているという危機感がある。最初は 20 代の女性だったが、今年の統計を見ると男性も相当流出している。

○一つ産業構造の転換という中で、強みを生かしたイノベーション的なものが欲しい。例えば、グリーン国土が、単に環境保全とか自然を守ろうという意味ではなく、そのレベルを脱して、中国圏が持っているポテンシャルを経済的にも次の儲けどころとしていくといった明るい発想が欲しい。種もないのに言えないが、そういった意味での中枢中核都市がない。活躍人口を輩出する拠点はやはり欲しいということをつけ加えたい。

渡邉座長（福山市立大学大学院）

○これまでの議論を踏まえ総括する。

○「活躍人口」という非常にキャッチーな言葉を使って打ち出している。単に関係を持ってくるだけではなくて、積極的に活躍してもらって中国圏を盛り上げてもらう、そういった活躍人口を増やすという考え方が一定程度ご認識を得た。

○計画を作るときに課題と強みはセットであり、特に広域地方計画なので、夢がある、元気づくような計画をつくることにチャレンジしてもいいのではないか。中国圏こんなにいいところだからみんな来て、活躍してほしいということにもつながってくる。課題は課題として認識しなければいけないが、中国圏は良さを打ち出す必要がある。

○儲かるから中国圏とかかわるというのもあって然るべきであり、活躍人口を考える意味でも、どういうふうに収益を上げられるものが持続的にこの圏域の中で営まれるかは大事なことである。広島都市圏という大きなエンジンはあるが、他の圏域と違うのは、それ以外にもたくさんのユニークなエンジンで動いているということが、中国圏の特徴である。

○中国圏の地域生活圏、先ほど行動圏という言葉も使ったが、多様な動きでつながり、それを支えなければいけなくて、それにより、逆にもっと多様なつながりができる可能性、ポテンシャルがある。今の動きに加えて、これから起きそうな動きも含めてそういった生活圏や行動圏を考え、計画の中に位置づけていければよい。

岩﨑推進室長（中国地方整備局）

○次世代の方々に向けたメッセージともなる計画なので、元気になってもらえる、ピンチはチャンスだと捉えていただく形で整理したい。ただ、足元で迫っている人口ダム機能の底が抜けたような話もあるが、危機感を訴えることも大事だと思っているので、そのあたりバランスをとって整理していきたい。

○人口減少が各産業の担い手の問題に直結しているということで、全産業にかかわる共通的なものなので、横断的な取り組みとしても何か書けないか考えてみたい。

○他圏域との連携についてもコメントがあった。一極集中に対する対応で、中国地方として期待される役割があろうかと思う。また、二地域居住については、今回法律が新しくできるので、今後は実装化していく中で、どのような政策等をこの計画の中に反映していくのかも考えなければいけない。

○経産省等他省庁の施策の反映が弱いのでは。との発言もあったので、ここは事務局レベルで横のつながりをしっかりとり、関係省庁の施策をしっかり受けとめながら盛り込んでいきたい。
○時期的に中間とりまとめの作成時期が後ろ倒しになったこともあり、能登半島地震で得られた教訓なども反映しながらじっくりと練り込んでいく必要があると考えている。

益田局長（中国運輸局）
○広島を含め、中国地方全体を元気にする計画であり、関心高く拝聴した。
○中国運輸局としては、物流の 2024 年問題、今後芸備線の再構築協議会も始まる。今回のご意見を踏まえて運輸局の仕事に生かし、計画本文にも反映させていただきたい。

中﨑局長（中国地方整備局）
○労働力、東京一極集中、カーボンニュートラル。それから関西、九州のことも全国ベースで解決しなければいけない。これらを解決するときに、中国圏の強みを生かすことを強調すべきだということ。また、3 万から 10 万の地域拠点についても、広島、岡山というもう少し大きな圏域と対比しながら、両者の強み、弱みを整理し、それらを互いに補完していく必要がある。
○マクロではアジアの話もあったが、観光客は欧米からもたくさん来ていただいており、つなぎ方をもっと意識することも必要であるし、ミクロレベルでは人の役割、活躍を補完しながらのつなぎ方というご意見もいただいた。そのマクロ、ミクロ両方でのつなぎ方は国土交通省の得意分野であるとコメント頂いた。強み、弱みを踏まえたつなぎ方をきちんと打ち出せるようにしていきたい。

3. 閉会
挨拶（中国運輸局　益田局長）
○我々が住んでいる中国地方をいかに元気にしていくか、中国地方の強みも生かして頑張りたい。本日のご意見は、これから本文案をつくるに当たりじっくりと反映させていただきたい。

事務局
以上をもって、第５回中国圏広域地方計画学識者等会議を終了する。

（以上）